

日本学術会議 土木工学・建築学委員会
第24期・第2回土木工学・建築学委員会
議事要旨

日 時：平成29年11月09日（木）10：00～11：50

場 所：日本学術会議6階 6-C(1)会議室

出席者：米田雅子、前川宏一、小林潔司、田辺新一、磯部雅彦、小池俊雄、池田俊介、
大西隆(S)、吉野博(S)、依田照彦、和田章、桑野玲子、竹内徹、
(順不同、敬称略、S:Skype参加)

配布資料

- 資料1 第1回土木工学・建築学委員会議事録
- 資料2 第24期土木工学・建築学委員会委員
- 資料3 第24期土木工学・建築学連携会員リスト
- 資料4 第23期土木工学・建築学委員会の活動項目リスト
- 資料5 企画分科会設置案
- 資料6 I R D R分科会設置案
- 資料7-1 分科会および世話人リスト
- 資料7-2 各分科会設置案
- 資料7-3 分科会と夢ロードマップの位置づけ
- 資料9 公開シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」
- 資料10 24期土木建築委員会の進め方の検討メモ

議事：

1. 前回議事録案の確認

- ・小池委員により資料1を用いて第1回委員会の議事録が確認された。修正事項は以下の通り。
 - 1) 分科会の設置予定時期を、I R D R分科会を除き、12月末に修正する。
 - 2) 連絡会員MLへの顔写真の収集は行わないこととする。
 - 3) 分科会リストの11)としてI U T A M分科会を列記する。

2. 各委員の自己紹介

- ・資料2を用いて、各委員の自己紹介を行った。

3. 役員の選出（委員長補佐の選出）

- ・委員長補佐として桑野玲子委員および竹内徹委員が承認された。

4. 第23期からの申し送り事項の確認

- ・資料4を用いて、第23期の活動状況について、第23期土木工学・建築学委員長の吉野委員より

説明があった。

5. 企画分科会の設置と委員名簿について

- ・企画分科会を土木工学・建築学委員会と同じ構成員で設置することが承認され、その下に環境工学連合小委員会を置く予定であることが報告された。

6. IRDR分科会の設置と委員名簿について

- ・IRDR分科会の設置案と現在の委員候補(23名)が小池委員より紹介された。
- ・委員候補が既に確定したような印象を与えるが、まだ公募を締め切っておらず第一回分科会も開催されていないので、新規の会員が入りやすいような配慮が必要ではないか。
- ・正式な手続きとしては、幹事会で承認された名簿の委員で構成する分科会を開催して、役員を選定し、分科会に関する審議を行うことになる。IRDR分科会の名簿は10月の幹事会で承認されている。委員を追加する場合には、IRDR分科会を開催して、委員追加の審議を経て、幹事会に委員の追加を上で申請することになる。したがって、締め切りまでは世話人が案内して積極的に希望者を受け入れ、人数が制限を超えた場合には定員変更の提案も含めて最初の分科会で議論することとする。

7. 分科会の設置趣旨、各分科会委員の募集状況の確認

- ・気候変動と国土分科会(小池委員)、現在応募者7名
- ・長寿・低炭素化分科会(田辺委員)、現在応募者4～5名
- ・インフラ高度化分科会(小林委員)、現在応募者7名
- ・都市・地域とデザイン分科会(米田委員)、現在応募者9名
- ・低頻度巨大災害分科会(磯部委員)、現在応募者6名
- ・次世代構造システム分科会(前川委員)、現在応募者7名
- ・WFEO 分科会(小池委員)、現在応募者4名

工学分野を広くカバーする団体であるので、総合工学、電気電子、機械等の他の工学分野にも声をかけ、活動のコアとなる方を推薦していただくとよい。世話人より他工学系の委員長への働きかけを行い、それを米田委員長が支援する。

- ・子どもの成育環境分科会(田辺委員)、現在応募者11名
- ・IUTAM分科会(前川委員、和田委員)、現在応募者数名、60年余の歴史を持つ応用工学国際連合に対応しており、関係しそうな連携会員に声かけを行っている。
- ・メールアドレス付名簿を桑野委員より世話人に送付する。各分科会への連携委員の所属に関するべ切は11/15であるが、まだ応募している人数が少ない。締め切りまでにできる限り世話人が関連する連携会員に声掛け・勧誘を行う。
- ・締め切り後に各世話人より米田委員長および委員長補佐に候補者名簿を届け出て、委員長補佐はそれらをまとめて整理し、まだ所属していない連携会員への問い合わせ、および分科会への振り分けを推進する。
- ・幹事会への届け出は11/27まで。

8. 日本学術会議公開シンポジウム「2017年九州北部豪雨災害と今後の対策」について
- ・資料9を用いて同シンポジウムについて紹介がなされた。
9. 委員会の今後の進め方について
- ・土木工学・建築学委員会の活動方針について、資料10を用いながら
案1)学際連携小委員会の設置、
案2) 特定の重要テーマ小委員会の設置、
案3)委員会の中に会員経験者を中心とするグループを作り重要テーマについて検討、
案4)委員会の中で学協会連携や重要テーマに関して議論する時間を確保、
案5)従来通り委員会としての提言活動やシンポジウムは行わず分科会活動を中心に活動、
の選択肢が米田委員長により提示され、意見交換を行った。
 - ・あまり組織を増やさず、委員会の中で学協会連携や重要テーマに関し議論することで良いのではないか。設定したテーマについて議論を連携会員全体で共有するのが良い。
 - ・組織を作るより、まず何を議論するかが大事。科学者の倫理・責任、近年多発する不祥事の問題、公益・一般法人の在り方などがまず議論すべきテーマとして挙げられる。
 - ・土木工学・建築学分野は他の工学分野と文化も違い、学術の社会への貢献をアピールすることも重要と考えられる。
 - ・職能のプレゼンスを求めるには責任と覚悟も必要である。
10. 今後の予定
- ・第4回委員会、2018年3月13日(火) 10:00～12:00
 - ・第5回委員会、2018年5月21日(月) 10:00～17:00
各分科会開催候補日 2018年5月22日(火)
全体委員会の準備は和田委員と依田委員にお願いすることになった。
 - ・第6回委員会、2018年8月7日(火) 10:00～12:00 (仮設定)

以上